

## 第7回 神経化学の若手研究者育成セミナー 参加レポート

奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 神経機能科学研究室

河田美穂

この度、神経化学の若手研究者育成セミナーの参加レポートを書かせて頂けることになりました。本セミナーは2008年からスタートし、日本神経化学会と併せて毎年開催されております。今回の第7回若手研究者育成セミナーは2014年9月28日から10月1日まで奈良の地で開催されました。私は六甲山で開かれた第3回のセミナーから毎年参加しており、今回が5回目の参加になります。そこで本稿では、第7回若手研究者育成セミナーの感想と、本セミナーに参加し続けてきて良かった、と感じたことを皆様にお伝えさせて頂きたいと思います。

今回私は慶応大学医学部の仲嶋一範先生と奈良県立医科大学医学部の牧之段学先生が担当して下さったFグループに参加しました。仲嶋先生は大脳皮質の形成機構について講義して下さいました。哺乳類の大脳皮質は1~6層の綺麗な層構造を形成しておりますが、その層形成にリーリンと呼ばれるタンパク質が重要な働きをしていることを教えて頂きました。仲嶋先生は最初にヒトの顔のイラストを使って、顔のパーツが正しい位置にあると顔だと認識することができるが、顔のパーツが全て揃っていても位置がバラバラであると顔とは認識できない、という例えを我々に示して下さいした後、このような現象がリーリンノックアウトマウスで起こり、大脳を構成する細胞は存在しているにも関わらず、それらの位置関係が乱れることで正常な層構造を作れないことを紹介して下さいました。牧之段先生は動物の行動実験の種類や、モデルマウスを作成した際にどの実験を組み合わせで評価すべきか、という点について講義して下さいました。昔はてんかん患者に直接電極を挿入して実験していたというお話もあり、非常に驚きました。仲嶋先生も牧之段先生も短い時間の中で講義スライドを準備して下さり、身近な例や簡単な用語を使って分かり易く説明して下さいました。これは本セミナーの大きな特徴であると思います。本セミナーでは、第一線で活躍されている先生方が、学生の為に分かり易くて面白い講義して下さいます。私はこの5年間で毎年違う先生の講義を聞かせて頂くことができましたが、それぞれの先生がどのようなお話をされていたかを今でも思い出す事ができます。これは、どの先生のお話也非常に分かり易く、また興味深く強く印象に残るものが多かったのだと思います。しかしながら、本セミナーの特徴は講義だけではなく、その後の夜から消灯(もしくは明け方)にかけて繰り広げられるフリーディスカッションも大きな特徴の一つだと感じています。こちらでは研究の話だけでなく、先生や学生の方々と普段の生活や出身地のことなどを和気藹々と語り合うことが出来ます。このフリーディスカッションの中で、他

大学の先生や学生の方々がどのような方法で実験されているのか、どのような環境で生活されているのか、そして、どのようにして研究のモチベーションを高めているのか等、様々なお話を聞かせて頂くことができました。このように全国各地の研究者の方々とお話しする機会があったことで、研究が上手くいかず沈んでいた気持ちが何度も楽になったことがありました。理系学生の方々は生活のほとんどを研究室で過ごされる方が多いと思います。その中で他の研究室との関わりが少なくなり、研究に対する考え方が一方向に偏ったり、柔軟に考えることが出来にくくなったりすることもあるかと思います。そのような時に、この若手研究者育成セミナーは、他の研究室との繋がりを作り、新しい視野を得る為のきっかけになってくれるのではないかと感じております。

私自身も過去5回のセミナー参加を通して、たくさんの繋がりを得ることができました。今回の日本神経化学会参加中も、過去のセミナーで出会った他大学の学生の方々がたくさん声をかけてくださいました。お互いの近況を報告し合い、研究の進捗状況などを話していました。去年は発表しなかったけれど今年はポスターや一般口演で発表したという方々や、中には助教に就任された方など、セミナーに参加されていた方々が毎年パワーアップされている姿を見て、嬉しく感じると共に、自分も頑張らなくてはと気持ちを奮い立たせることが出来ました。年に一度の機会ですが、続けて参加してきたことで仲良くなった先生や学生の方々が増え、研究に対する姿勢が変わり、次の年はもっと上を目指したいと思うようになりました。本セミナーが私にとって研究を頑張る為の原動力の一部分になっていたことを感じました。このようなセミナーは他の学会ではみられない貴重な機会だと思いますので、興味を持たれた方は是非一度セミナーに参加して頂けると幸いです。

最後になりましたが、今回私達に幅広い視点から多くのアドバイスをご教授していただき、また全国各地で研究されているたくさんの方々と交流する機会を与えてくださいました神経化学の若手研究者育成セミナーの関係者の皆様と、このような参加レポートを書かせて頂く機会を設けてくださった日本神経化学会の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本セミナーで得た経験を活かし、神経化学の発展に貢献できるような研究者になりたいと考えております。